

**JENESYS2016 招へいプログラム**  
**SAAAC 第2陣（テーマ：エネルギー）**  
**対象国：SAARC 8カ国**  
**の記録**

**1. プログラム概要**

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2016」として、SAARC8カ国より高校生、大学生および社会人の計110名が、2月6日～2月14日の8泊9日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史、教育及び外交政策等などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。地方自治体訪問、企業訪問、学校交流、ホームステイ等を通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて对外発信を行いました。また、帰国前の報告会では訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

**【参加国・人数】**110名（アフガニスタン26名、インド12名、スリランカ12名、ネパール12名、パキスタン12名、バングラデシュ12名、ブータン12名、モルディブ12名 ※50音順）

**【訪問地】**東京都（全員）、千葉県（85名）、岩手県（31名）

**2. 日程**

2月6日（月） 羽田／成田国際空港より入国（アフガニスタン以外）

グループB/C/D:

【最先端技術視察】日本科学未来館

【企業視察】東京ガス株式会社袖ヶ浦工場 LNGプラザ

全体:

【オリエンテーション】

2月7日（火）

成田空港より入国（アフガニスタン）

【日本理解講義・基調講演】

【環境関連施設視察】新港クリーンエネルギーセンター（グループA/B/C）

【環境関連施設視察】成田富里いずみ清掃工場（グループD）

2月8日（水）～12日（日）

グループごとに分かれ、地方プログラムを実施

1. グループA/B/C:千葉県

【防災関連施設視察】千葉県西部防災センター

【地方自治体表敬訪問】鴨川市

【地域産業視察】鴨川市総合交流ターミナル「みんなみの里」

【環境関連施設視察・講義】鴨川シーワールド

【環境関連施設視察】鴨川みらいソーラー太陽光発電所

【ホームステイ】【ワークショップ】

【自然体験・環境関連施設視察】大山千枚田

## 2. グループD:岩手県

【防災関連施設視察】東京臨海広域防災公園 そなエリア（東京都）

【地方自治体表敬訪問】久慈市

【環境関連施設視察】久慈波力発電所、久慈地下水族科学館もぐらんぴあ

【文化体験】琥珀玉づくり

【企業視察】久慈バイオマスエネルギー株式会社

【ホームステイ】

【ワークショップ】

2月13日（月）地方プログラム終了後、東京へ移動

【最先端技術視察】技術資料館うみめがね（グループA/B/C）

【報告会】

2月14日（火）

【歴史的建造物視察】浅草寺（アフガニスタン・ブータン・インド）

【企業視察】ライオン株式会社千葉工場（アフガニスタン）

【表敬訪問】パキスタン大使館（パキスタン）

羽田／成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真  
共通プログラム（東京都）



2/6 【オリエンテーション】

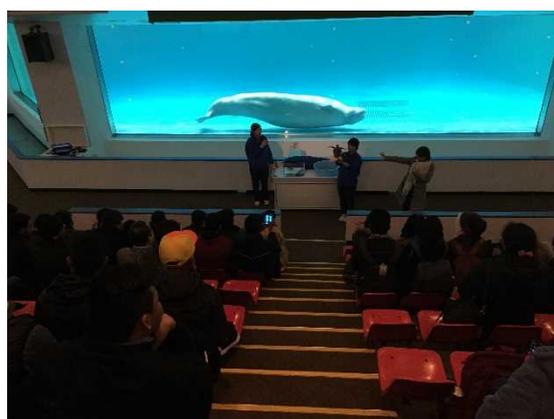


2/7 【環境関連施設視察】成田富里いずみ清掃工場

グループ A/B/C: 千葉県



2/8 【地方自治体表敬訪問】鴨川市



2/9 【環境関連施設視察・講義】鴨川シーワールド



2/11 【自然体験・環境関連施設視察】大山千枚田



2/11 【自然体験・環境関連施設視察】大山千枚田



2/10, 2/11 【ホームステイ】



2/12 【ホームステイ 歓送会】

グループ D:岩手県



2/9 【地域産業・企業視察】久慈地下水族科学館もぐらんぴあ



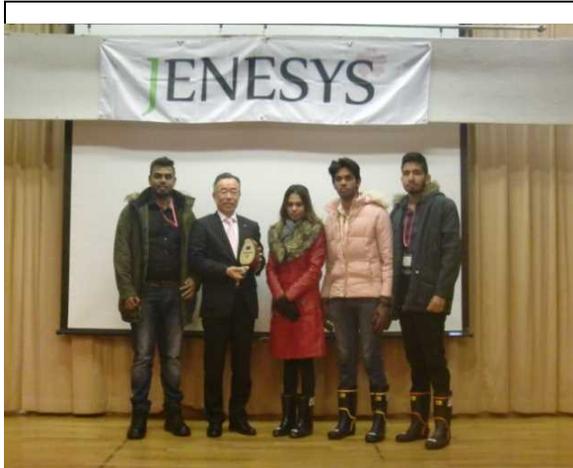
2/10 【地域産業・企業視察】久慈バイオマスエネルギー株式会社



2/10 【文化体験】久慈琥珀博物館



2/11 【ホームステイ】久慈市



2/9【地方自治体表敬訪問】久慈市長 (久慈市)



2/12【ワークショップ】久慈市

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ パキスタン 学生

最初の講義で日本が第二次世界大戦や2011年の福島事故からどのように復興したかを知りました。そして、日本がどれ程発展し、また復興したかということに非常に驚きました。鴨川市を訪問し、技術面で優れていると感じました。鴨川市は東京都心から遠く離れており、人口は3,500名程度であるにもかかわらず、インフラや施設、設備がその規模から考えられないほど素晴らしかったため、地方都市とは思えませんでした。JENESYS2016で一番良かったことはホームステイです。日本の文化、しきたりや料理を身近に体験することができました。日本人と過ごした時間は本当に一生の思い出です。不便を感じることもありましたが、友達もでき、多くの事を学び、何物にも代えがたい最高の時間を過ごすことができました。

##### ◆ ネパール 学生

ホームステイはこれまでの人生において最も重要で興味深くまた楽しいプログラムでした。典型的な日本人のご家庭でお世話になりました。何世代にも渡って受け継がれてきた日本の伝統、文化、生活様式について学べたことは素晴らしい経験です。お土産を交換して話し合ったり、自国とは全く違う日本の食生活に触れることもできました。日本人が私たちに敬意をもって接し、愛情とやさしさをかけ、おもてなしをしてくれたことに感銘を受けました。私の人生において大変貴重な時間を過ごさせていただきました。

##### ◆ スリランカ 社会人

成田富里いずみ清掃工場訪問は、グループのテーマに適した内容でした。画期的な技術を応用してゴミで発電するのです。市内のゴミを処理するだけでなく、売電による収入も生み出す仕組みには驚きました。スリランカにも導入するべきだと思います。また、ホストファミリーはとても優しく歓待してくれました。海辺へ買い物に連れて行ってくださいました。とても良い経験で忘れられない思い出になりました。

## 5. 受入れ側の感想

### ◆ ホストファミリー

今回イスラム教の生徒ということで、食べ物にもとても気を付けなければならないと覆いでしたが、回転ずしにチャレンジしたり、野菜と魚の鍋、てんぷら、畑で収穫したジャガイモのフライドポテトもよく食べていただいて、我が家でリラックスしてくれたと感ずることができて、とても楽しい時間を過ごせました。最終日は着物をきて、写真を取り、楽しそうにさせていただいたのがとても印象に残っています。またお箸の使い方も上手になり、充実したときで貴重な経験をさせていただきました。

### ◆ 受け入れ協力団体関係者

今回社会人中心の訪日団の受け入れということで、これまでの学生訪日団の受け入れとは少し雰囲気が違う印象を受けました。ホームステイ前日のオリエンテーションの際にホストファミリーのほとんどが英語を話せないとわかった際に不安そうな表情だった訪日団が、ホームステイ先に到着しホストファミリーの方々と初めてお会いして安心したような表情に変わり、ホームステイ終了後には全員が笑顔で戻って来ました。その訪日団の表情の変化がとても印象的でした。「また戻って来たい」と訪日団の皆さんに言うだけで大変嬉しく思います。これまでの訪日団のメンバーでも、何人が再来日してホストファミリーとの再会を果たしている方もいると聞きます。各国訪日団との「ご縁」が末永く続いて欲しいと、心から願っております。

### ◆ ホストファミリー

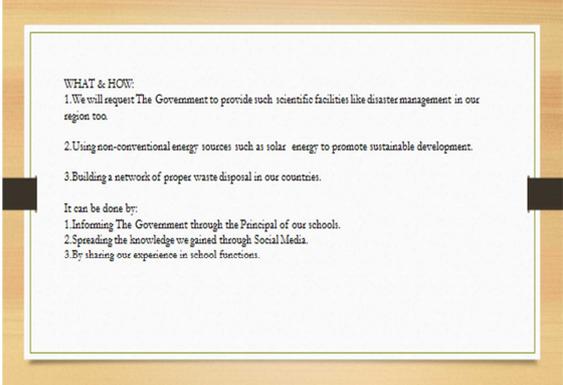
それぞれの国のことを片言でも紹介し合えたり、知識を得ることができてよかったです。着物を着る姿がとてもうれしそうでした。

## 6. 参加者の対外発信

	
<p>大山千枚田の棚田 (インスタグラム)</p>	<p>今日は東京臨海広域防災公園で、防災への備えと災害発生後 72 時間の過し方を体験学習。その後、東京から遠く離れて平庭山荘っていう、すごく素敵なコテージにきた！中は普通の日本家庭みたいで、ホームステイの練習が出来る。本当にラッキー。(Facebook)</p>

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<p style="text-align: center;">Action Plans</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Setting Up Solar panels</li> <li>・ Self sufficiency in production</li> <li>・ Working on Self organization and discipline</li> <li>・ To share the findings in Japan to our society; we will try to use conferences, seminars and round tables</li> <li>・ To share the interesting parts of the program through news papers particularly University News letter.</li> <li>・ To share our findings by Social sites like Face Book, Twitter and etc.</li> </ul>	<p style="text-align: center;">SNS</p> 
<p>Group A :</p> <p>ソーラーパネルの設置・生産物の自給を自分の組織・学科に働きかける。協議会・セミナー・円卓会議を利用し、日本滞在中の</p>	<p>Group B : モルディブ</p> <p>日本での経験を共有するためのプレゼンを行う。学校で既にくつかの小さなプログラムを実施しているので、その中に日</p>

<p>発見を社会に発信する。大学報等の新聞で本プログラムの興味深い点を伝える。フェイスブック・ツイッター等のソーシャルメディアで発見した事柄を共有する。</p>	<p>本の伝統化を組み込む。</p>
 <p>WHAT &amp; HOW:  1. We will request The Government to provide such scientific facilities like disaster management in our region too.  2. Using non-conventional energy sources such as solar energy to promote sustainable development.  3. Building a network of proper waste disposal in our countries.</p> <p>It can be done by:  1. Informing The Government through the Principal of our school.  2. Spreading the knowledge we gained through Social Media.  3. By sharing our experience in school functions.</p>	 <p>ACTION PLAN</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Dissemination of our learning</li> <li>○ Joint Ventures</li> <li>○ Transfer of technologies</li> <li>○ More such exchange programmes</li> <li>○ Implementation (when &amp; how)</li> </ul>
<p>Group C :</p> <p>何を実施するか :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.防災管理センターのような施設を地域につくるべく政府に要請する。</li> <li>2.太陽光発電などを利用した持続可能なエネルギーの促進を図る。</li> <li>3.適切なごみ処理に向けてネットワークを作る。</li> </ol> <p>どのように実施するか :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.高校の校長先生を通して政府に働きかける。</li> <li>2.SNS を使って知識を広める。</li> <li>3.学校行事で日本での経験について話す。</li> </ol>	<p>Group D :</p> <p>アクション・プラン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学んだことを他の人に伝える</li> <li>● 共同事業</li> <li>● 技術移転</li> <li>● 交流プログラムを増やす</li> </ul>